原稿種別（事務局記入）

原稿タイトル（18P MSゴシック）

著者姓 名a,\*，共著者姓 名b（12P MS明朝）

a著者所属（部署と機関，12P MS明朝）

b共著者所属

（受取日：0000年00月00日，受理日：0000年00月00日）

**Title of Paper (14P Times New Roman, Bold)**

First name Family namea,\*, Name of authorb (12P Times New Roman)

a Affiliation of Author a (12P Times New Roman)

b Affiliation of Author b

(Received \*\*\*. \*\*, 202\*; Accepted \*\*\*. \*\*, 202\*)

Abstract (<200 words for normal length paper, <100 words for short note, 9P Times New Roman)

Keywords: aaaa, bbbbb.(less than 6 of key words, 9P Times New Roman

著者が複数の場合は，責任著者の右上に \* をつけて下さい。

1. はじめに

**(見出し：通し番号を付け，和文10P MSゴシック，英文10P Arial，ボールド，センタリング)**

(１行開き)

＜テンプレートの使い方＞

赤字および見本の仮入力文字と説明文を削除してご記入下さい。編集作業の低減にご協力ください。

①本文は２段組，句読点は（，）と（。）を使用。（和文：9P MS 明朝，英数：9P Times New Roman）

②文献番号は関連語句の後，または文節末の句読点（，。）の後に上付で1)，2-6) 等と記載。

③図は**Fig.1**，**Figs.2-4，Fig.5(a)**と引用。図は本文中に挿入（折り返しは四角，行間または上下）。大きな図は段組を一時解除して挿入。容量の大きな図は解像度を下げる（圧縮する）か別ファイルで送る。

④表は**Table 1**，**Tables 2-4**と引用。表は図と同様本文中に挿入，大きな表は段組を一時解除して挿入。

⑤図の下部と表の上部には英文説明文を記入する。

⑤図表およびその説明文と本文の間は１行開ける。

⑥数式，化学式は下記のように左詰め，式番号は括弧付きとして右詰め。

(1)

⑦物理量はイタリック，記号と単位は原則SI単位とする。

ヘッダとフッダは先頭ページ，奇数ページ，偶数ページが異なります。（編集段階で記入します）

* 原稿は熱測定編集委員会（下記メールアドレス）へ添付ファイルとして送付して下さい。合計容量の大きなファイルは分けて送付下さい。

送付先：　edit@netsu.org

* 冊子体はモノクロ印刷です。図表や凡例における判別可能性にご注意ください。カラー印刷の場合は，脱稿時に指示して下さい。（別途料金が発生します）なおオンライン版はカラーで公開されます。
* 既に出版された図表の利用は，著者の責において出版社の許諾を得てください。
* 図表の位置指定が上手くいかない場合は，本文中に挿入位置を朱書したうえで，別途お送りください。

文頭は１字下げ（以下，本文を記入）

2. 見出し２**（以下，見出し自由）**

（見出しの上下１行開き）

（図をjpegまたはtiff形式として貼り付ける。）

**Fig.1** Type figure caption in text box. (9P Times New Roman)

**Table 1** Sample of Table.

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| *T* /K | *x* | *H*mE /kJmol-1 | *V*mE /cm3mol-1 |
| 198.15 | 0.5000 | 273.5 | 1.23 |
| 303.15 | 0.4000 | 125.2 | 0.75 |

謝　　辞

　謝辞がある場合記載

文　　献

(1行開き)

文献は論文の場合は著者，雑誌名（イタリック），巻（号）（ボールド），始頁-終頁 (発行年) の順に記載

本の場合は著者，書名，（訳者）出版社名（出版年）を記載

例）

1) G. R.ストローブル, 「高分子の物理」（6章），深尾，他 訳，シュプリンガージャパン (1998).

2) E. R. Cohen, T. Cvitas, J. G. Frey, B. Holmstrom, K. Kuchitsu, R. Marquardt, I. Mills, F. Pavese, M. Quack, J. Stohner, H. Strauss, M. Takami, A.J. Thor, “*IUPAC Green Book, 3rd ed.*”, RSC Publishing, https://iupac.org/wp-content/uploads/2019/ 05/IUPAC-GB3-2012-2ndPrinting-PDFsearchable.pdf (accessed: 2024.3.22)出版物の場合

3) 日本熱測定学会「熱測定コンシェルジュ・DSCで潜熱プロファイルに温度幅が生じるのはなぜか？」, https://www.netsu.org/JSCTANew/?p=1677 (accessed: 2024.3.22) ウェブ上の記事の場合

16) Y. Saruyama, *Thermochim. Acta* **330**, 101-107 (1999).

17) (a) E. L. Derr and C. H. Deal, *Proc. Int. Symp. Distill.* **3**, 40-51 (1969); (b) K. Kojima and K. Tochigi, *Prediction of vapor-liquid equilibria by the ASOG method*, Kodansha, TOKYO (1979); (c) K. Tochigi, D. Tiegs, J. Gmehling, and K. Kojima, *J. Chem. Eng. Japan* **23**, 453-463 (1990); (d) A. Correa, J. Tojo, J. M. Correa, and A. Blanco, *Ind. Eng. Chem. Res.* **28**, 609–611 (1989).

\*責任著者

著者名a

Author a

E-mail:

Photo

著者名 b

Author b

E-mail:

Photo